

1. 生育状況

出穂期は8月8～12日頃と予想しています。今後、高温多照が続くと早まる可能性があります。

◆◆◆晩植生育調査結果(7月18日調査)◆◆◆

	移植日 (月/日)	幼穂長 (mm)	出穂予想 (月/日)
安吉	5/25	0.8～1.5	8/8～12

2. 今後の栽培管理

1)倒伏について

中干しが不十分で水を溜め続けた圃場では、下位節間の伸長が確認されています。

また、葉色が濃く、草丈が長く、倒伏が懸念される場合は倒伏軽減剤の使用を検討して下さい。

● 倒伏軽減剤

薬剤名	散布量 (10a)	使用時期	使用回数	散布時の注意事項
スマレクト 粒剤	2～3kg	出穂前	1回	○温水状態で均一に散布する。 ○散布後5日間は、落水やかけ流しはしない。
		15～10日		
ビビフル 粉剤DL	3～4kg	出穂前	1回	○まきムラ、重複散布をしない。 ○イネの茎葉部に均一に散布する。 ○降雨直後、降雨が予想されるときは控える。
		10～5日		

2)本田防除について

①斑点米カメムシ類について注意報が出されています(7月13日カメムシ多発注意報第2号)。特に飛翔性カメムシが多いことから、ほ場への侵入は長引くと懸念されます。出穂後2回の防除を徹底しましょう。

●基幹防除(出穂時期 8/10 頃のほ場での目安)

区分	薬剤名	散布時期	10a当り 散布量	備考
1回目 (出穂直前)	サジェスト微粒剤F	8月8～12日	4kg	収穫21日前まで
2回目 (出穂7日後)	ビームスタークル 微粒剤F	8月15～20日	4kg	収穫7日前まで
随時 (出穂14日後)	キラップ微粒剤F	8月22～26日	3kg	収穫14日前まで

(成熟期: 平年9月17日頃)

※ほ場により出穂期が異なりますので、出穂期を確認して適期防除に努めてください。

②コブノメイガの食害が見られたら、ただちに防除を実施する。

※葉色の濃いところに被害が集中する。

「MR ジョーカー粉剤 DL」 4kg/10a (収穫7日前まで)

3)水管理

(1) 間断通水を徹底し、足跡に水が残る程度の飽水状態を保ち、根の活力維持と出穂後の登熟向上を図りましょう。

(2) 特に、登熟初中期(出穂後6~20日頃)に高温と水分不足が重なると、乳白粒・胴割粒の発生を助長します。2~3日おきに間断通水を行う。また、用水が十分に確保される地域では、夜間通水を行いましょ(下図)。

(3) 台風の接近や通過が予想される場合は、事前にほ場への入水を行い、フェーンや強風による被害の軽減を図って下さい(台風の通過後は速やかに排水して下さい)。

(4) 高温となる日中の湛水は根を痛めるので避けて下さい。通水は夕方か朝方とし、根の健全化に努めましょう。

(5) 集落ぐるみで計画的な水利用に努めて下さい(溝切りの溝に水を通すなど、効率的な水利用に努めましょう)。

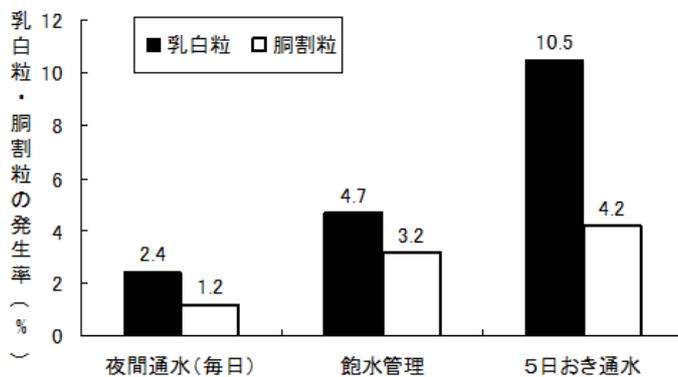
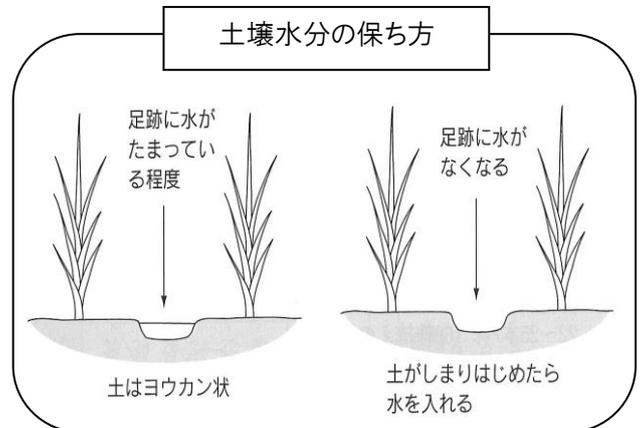


図 出穂後の水管理が品質に及ぼす影響(石川農研)

※飽水管理(2~3日おきの通水で土壌を常に湿らせておく管理)では、夜間に毎日通水するほどの効果は得られないものの、5日おきの通水より、乳白粒・胴割粒の発生を抑えることができます。

農作業中の熱中症に注意、7~8月は熱中症予防強化月間です ~熱中症予防のポイント~

① 天気予報と体調のチェック

急に暑くなる日は要注意。体調不良時には無理をしないようにする。

② 涼しい服装・安全な作業環境

帽子で日差しを遮り、汗を逃しやすい服装で作業をする。

作業はできる限り二人以上で行う。建屋の中も風通しを良くする。

③ こまめな水分補給・こまめな休憩

のどが渇く前にこまめに水を飲む。こまめに涼しい場所で休憩する。